

49 回生 シラバス

科目名：成人看護学実習 I (慢性期・終末期) 単位数：2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数：90 時間	時期：3 年次
科目目標： 1 慢性期にある患者を総合的に理解する。 2 終末期にある患者を総合的に理解する。 3 慢性期にある患者が様々な規制の中で自己管理と社会生活への適応ができるように援助する。 4 終末期にある患者の苦痛の緩和を図り、QOL の維持向上ができるように援助する。 5 保健医療福祉チームの一員としてチーム連携のあり方について理解する。 6 慢性期・終末期にある患者の看護について考察する。 7 学習者として望ましい態度で実習する。			
授業内容		授業方法	場所
1 患者の健康障害の種類、経過、治療、予後について述べる事ができる。 2 患者が疾病や病状をコントロールする上で、自己管理能力がどの程度あるか述べる事ができる。 3 患者・家族が疾病をどのように受け止めているかを述べる事ができる。 4 患者の疾病が、社会背景に及ぼす影響と家族関係について述べる事ができる。 5 患者の身体的・心理的苦痛、家族・重要他者の心理状況について述べる事ができる。 6 患者と社会、患者と家族の関係性について述べる事ができる。 7 患者の QOL がどの程度維持されているか述べる事ができる。 8 現在の患者に起きている器質的、機能的障害の変化に対応した援助ができる。 9 疾病の特徴から予測される合併症、二次障害に対応した援助ができる。 10 患者及び家族に求められる療養行動について、個別的な教育指導を考えることができる。 11 患者の身体的、心理的苦痛の緩和を図るための援助ができる。 12 現在の状況から予測される合併症、二次障害に対応した援助ができる。 13 患者の QOL を維持向上するための援助について考えることができる。 14 チームアプローチを行うための他職種連携および看護師の役割について述べる事ができる。 15 チームアプローチや他職種連携を活用した看護援助について述べる事ができる。 16 実践した看護を振り返り、慢性期・終末期に必要な看護について述べる事ができる。 17 実践した看護を振り返ることで自己の課題を明確にできる。 18 倫理的配慮を持って、人間としての尊厳を重んじた態度で患者・家族と関わる事ができる。 19 適切なタイミングで報告・連絡・相談ができる。 20 建設的な姿勢で指導を受ける事ができる。 21 積極的にカンファレンスなどで意見交換しながら学びを深める事ができる。 22 自己の心身のコントロールができる。		病院実習 90 時間	岡山労災病院
評価方法：実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容および記録より評価する。			
評価基準：60 点以上で合格とする。			

49 回生 シラバス

科目名：成人看護学実習Ⅱ (回復期) 単位数：2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数：90 時間	時期：3 年次
科目目標： 1 回復期にある患者を総合的に理解する。 2 回復期にある患者の心身の苦痛を緩和することで、患者が自己の能力を最大限に発揮できるよう援助する。 3 保健医療福祉チームの一員としてチーム連携のあり方について理解する。 4 回復期にある患者の看護について考察する。 5 疾病が成人期の生活に及ぼす影響について理解する。 6 学習者として望ましい態度で実習する。			
授業内容		授業方法	場所
1 患者の健康障害の種類、経過、治療、予後について述べる事ができる。 2 患者の疾患や治療上の制限が及ぼす日常生活動作に対する影響とセルフケア能力について理解できる。 3 機能回復において患者や家族が設定している目標を述べる事ができる。 4 患者の疾病が社会背景に及ぼす影響と家族関係について述べる事ができる。 5 現在の患者に起きている器質的、機能的障害の変化に対応した援助ができる。 6 疾病の特徴から予測される合併症、二次障害に対応した援助ができる。 7 患者の運動機能を高める為に患者・家族の状況に合った教育指導や援助が指導のもとできる。 8 退院後の生活に適応していく為に個別性のある援助ができる。 9 チームアプローチや他職種連携を活用した看護援助ができる。 10 実践した看護を振り返り、回復期に必要な看護について述べる事ができる。 11 実践した看護を振り返ることで自己の課題を明確にできる。 12 疾病が成人期の職業生活・家庭生活に及ぼす影響について述べる事ができる。 13 倫理的配慮を持って、人間としての尊厳を重んじた態度で患者・家族と関わる事ができる。 14 適切なタイミングで報告・連絡・相談ができる。 15 建設的な姿勢で指導を受ける事ができる。 16 積極的にカンファレンスなどで意見交換しながら学びを深める事ができる。 17 自己の心身のコントロールができる。		病院実習 90 時間	岡山労災病院
評価方法：実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容および記録より評価する。			
評価基準：60 点以上で合格とする。			

49 回生 シラバス

科目名：成人看護学実習Ⅲ (急性期) 単位数：2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数：90 時間	時期：3 年次
科目目標： 1 手術療法および手術中の看護について理解する。 2 集中治療および集中治療を受ける患者の看護について理解する。 3 急性期にある患者を総合的に理解する。 4 手術前後の看護について理解する。 5 急性期にある患者に対して合併症を予防し、回復を促進させるための援助ができる。 6 内視鏡検査時の看護について理解する。 7 急性期にある患者の看護について考察する。 8 学習者として望ましい態度で実習する。			
授業内容		授業方法	場所
1 手術室という治療環境について述べる事ができる。 2 麻酔や手術が身体に及ぼす影響を述べる事ができる。 3 手術室における看護師の役割を述べる事ができる。 4 ICU という治療環境について述べる事ができる。 5 ICU に入室している患者の特徴について述べる事ができる。 6 ICU における看護師の役割を述べる事ができる。 7 患者の健康障害の種類、経過、治療、潜在的な合併症について捉えることができ、日々優先して観察するべき合併症が何か述べる事ができる。 8 急性期にある患者の身体機能の変化について述べる事ができる。 9 身体機能の変化が及ぼす日常生活や回復過程への影響を述べる事ができる。 10 手術前看護について述べる事ができる。 11 手術後看護について述べる事ができる。 12 合併症や二次障害を予防・最小限にするための援助ができる。 13 患者の状況に応じた看護援助ができる。 14 実施した看護援助について評価することができる。 15 内視鏡前、中、後の看護について述べる事ができる。 16 実践した看護を振り返り、急性期に必要な看護について述べる事ができる。 17 実践した看護を振り返ることで自己の課題を明確にできる。 18 倫理的配慮を持って、人間としての尊厳を重んじた態度で患者・家族と関わる事ができる。 19 適切なタイミングで報告・連絡・相談ができる。 20 建設的な姿勢で指導を受ける事ができる。 21 積極的にカンファレンスなどで意見交換しながら学びを深める事ができる。 22 自己の心身のコントロールができる。		病院実習 (病棟、手術室、ICU) 90 時間	岡山労災病院
評価方法：実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容および記録より評価する。			
評価基準：60 点以上で合格とする。			

49 回生 シラバス

科目名：老年看護学実習 I 単位数：2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験あり） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数：90 時間	時期：3 年次
科目目標： 1. 施設で生活する高齢者を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する 2. 老化や障害とともに生活する高齢者の生活援助について考え、実践する 3. 生活環境における保健・医療・福祉チームの特徴と連携の必要性を理解する 4. 認知症対応型共同生活介護の実際について理解する 5. 通所介護の実際について理解する 6. 看護を学ぶ学習者として必要な態度を身につける 7. 施設で生活する高齢者の生活支援を通して自己の老年看護観を養う			
授業内容		授業方法	場所
1. 対象の生活スタイルについて述べるができる 2. 対象の施設生活や今後の生活に対する思いについて述べるができる 3. 対象の健康状態及び障害の程度、日常生活動作について述べるができる 4. 対象の健康障害・生活上の問題点が抽出できる 5. 対象の持てる力に合わせた生活援助計画が立案できる 6. 対象の持てる力に合わせた生活援助が実践できる 7. 対象の状態に合わせて評価・修正が行える 8. 介護保険法に基づく施設（認知症対応型生活介護・通所介護）の機能と特徴、利用者について述べるができる 9. 施設を利用する高齢者に対する援助について述べるができる 10. 保健・医療・福祉チームの役割と連携の実際について述べるができる 11. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割について述べるができる 12. 高齢者を敬い、意思を尊重する態度で接することができる 13. 心身の健康管理ができる 14. 対象に合わせたコミュニケーションが図ることができる 15. 指導・助言を生かしながら、主体的に実習に取り組むことができる 16. カンファレンスで積極的に意見を述べ、意見交換で学びを深めることができる 17. 高齢者の生活機能を低下させないための施設・病院間の継続看護の必要性について述べるができる 18. 施設で生活する高齢者を支援する他職種チームの特徴と看護師の役割について述べるができる		・居室実習 60 時間 ・認知症対応型生活介護実習 15 時間 ・通所介護実習 15 時間	社会福祉法人 淳風福祉会 特別養護老人 ホーム若宮園
評価方法 実習終了後、老年看護学実習 I 評価表に基づき、実習態度・実習内容および記録より評価する			
評価基準 60 点以上で合格とする			

48 回生 シラバス

科目名：老年看護学実習Ⅱ 単位数：2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数：90 時間	時期：3 年次
科目目標： 1. 老年期にある患者を総合的に理解する 2. 老年期にある患者の健康回復・合併症予防・QOLの維持・向上を目指した看護過程の展開を行う 3. 医療の場における保健・医療・福祉の機能を理解し、多職種との連携・協働における看護の役割・機能を学ぶ 4. 老年期看護を学ぶ学習者として必要な態度を身につける 5. 看護実践を通して自己の老年看護観を養う			
授業内容	授業方法	場所	
1. 患者の健康障害の経過、治療、予後について捉えることができる 2. 加齢に伴う変化や疾病に伴う障害が日常生活へ与える影響を捉えることができる 3. 患者、家族の背景を三側面（身体的・精神的・社会的）で捉えることができる 4. 疾病に伴う価値観の変化や今後の生活に対する思いを捉えることができる 5. 患者を発達段階に照らし合わせて捉え、現段階の課題を捉えることができる 6. 患者の特徴と健康障害の程度を解釈・分析し、二次的障害や生活上の問題から看護診断が抽出できる 7. 患者の個別性をふまえ、達成可能な成果が設定できる 8. 患者の個別性をふまえ、問題解決に向けた看護計画が立案できる 9. 患者の健康状態の回復に合わせた看護援助ができる 10. 患者の残存機能を活かした日常生活の援助ができる 11. 患者の状態の変化や回復に合わせた評価・修正ができる 12. 患者に関わる多職種の役割を知り、連携・協働の必要性を述べることができる 13. 患者の回復に向けたチームの働きと、チームにおける看護師の役割を述べる ことができる 14. 対象を敬い、尊重した態度で接することができる 15. 自己の健康管理ができる 16. 適切なタイミングで報告・連絡・相談ができる 17. 指導・助言を活かしながら、主体的に実習に取り組むことができる 18. カンファレンスで積極的に意見を述べ、学びを深めることができる 19. 実習を通して学んだ老年期看護の特性と看護の役割について述べる ことができる 20. 実習を通しての自己課題と今後の取り組みについて述べる ことができる	90 時間	岡山労災病院	
評価方法 実習終了後、老年看護学実習Ⅱ評価表に基づき、実習態度・実習内容および記録より評価する			
評価基準 60 点以上で合格とする			

49 回生 シラバス

科目名： 小児看護学実習	単位数： 2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数： 90	時期： 3年次
科目目標： 1. 小児の生活・遊びの場面を通して、健康な小児の成長発達を理解する。 2. 外来を受診する小児と家族の特徴を理解する。 3. 小児の健康の保持増進・疾病の予防に関する外来看護を実践する。 4. 小児を取り巻く保健・医療・福祉の連携における看護師の役割を理解する。 5. 小児の発達段階および家族の状況を理解し、健康障害や入院が小児や家族に及ぼす影響を理解する。 6. 小児の特徴を理解し、小児および家族に対して必要な看護援助を実践する。 7. 小児と家族の最善の利益を考え、尊厳と権利を擁護し、学習者として望ましい態度を養う。 8. 小児看護の特徴と役割について自らの考えを記述できる。				
授業内容		授業方法	場所	
1. 小児各期の成長発達について述べるができる。 2. 発達段階に応じた日常生活援助の方法について述べるができる。 3. 遊びの意義を理解したうえで、発達段階に応じた遊びについて述べるができる。 4. 小児の成長発達に応じた危険防止の方法を考察することができる。 5. 健康な小児の成長発達をふまえた関わりができる。 6. 外来を受診した小児と家族の健康障害の程度や段階を述べるができる。 7. 指導を受けながら、感染防止の必要性を述べるができる。 8. 指導者と共に、安全に留意しながら、発達段階に応じた診察・検査・処置時の援助ができる。 9. 受け持った小児・家族への看護の実際から、外来看護に求められる役割を述べるができる。 10. 乳児検診について述べるができる。 11. 予防接種の目的や内容、それに関わる看護師の役割を述べるができる。 12. 受け持ち患児の健康状態・成長発達状況・基本的な生活習慣について述べるができる。 13. 受け持ち患児と家族が抱える健康および生活上の問題を明らかにできる。 14. 受け持ち患児に必要な看護援助を述べるができる。 15. 受け持ち患児の健康障害・成長発達に応じた日常生活援助や遊び・学習の支援ができる。 16. 家族を含めた援助の必要性を述べるができる。 17. 倫理観に基づき、小児を一人の人として尊重し、小児・家族と関わるができる。 18. 適時、適切な人に報告・連絡・相談ができる。 19. 建設的な姿勢で指導を受けることができる。 20. カンファレンスで積極的に意見交換しながら、主体的に学びを深めることができる。 21. 自己の心身のコントロールができる。 22. 小児看護の特徴と看護師の役割について述べるができる。 23. 実践した看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。		保育所実習 30 時間 外来実習 30 時間 病院病棟実習 30 時間	ひかり幼稚園 倉敷市民病院 小児科外来 すこやかクリ ニック 倉敷市民病院 南岡山医療セ ンター	
評価方法 実習終了時に実習評価表に基づき、実習内容および記録より評価する。				
評価基準 60 点以上で合格とする。				

49 回生 シラバス

科目名： 母性看護学実習	単位数： 2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数： 90	時期： 3年次
科目目標： 1. 対象を理解することができる。 2. 個々の対象に応じた看護過程の展開ができる。 3. 学習者として望ましい態度で実習することができる。 4. 母性看護学実習を通して自己の考えをまとめることができる。				
授業内容			授業方法	場所
1. 妊娠期にある女性の特性について、身体的・心理的・社会的側面から述べるができる。 2. 分娩期にある女性の特性について、身体的変化と心理的变化を述べるができる。 3. 産褥期にある女性の特性について、身体的・心理的・社会的側面から述べるができる。 4. 新生児の特性について、早期新生児期の生理的特徴を述べるができる。 5. 対象者を取り巻く環境について、家族の役割・機能を述べるができる。 6. 対象把握に必要な情報収集ができる。 7. 収集した情報を整理し、それまでの経過をふまえた現状のアセスメントができる。 8. 今後の予測をふまえ、必要な援助（問題点）を抽出することができる。 9. 必要な援助（問題点）における目標設定および具体策（看護計画）が立案できる。 10. 対象者に必要な援助を見学・実践し、具体策（看護計画）の評価・修正ができる。 11. 指導・助言を生かしながら、主体的に実習に取り組むことができる。 12. 対象者の安全・安楽・羞恥心・感染予防に配慮した言動をとることができる。 13. 実習生として適切な報告・連絡・相談ができる。 14. カンファレンスで積極的に意見交換しながら、主体的に学びを深めることができる。 15. 自己の心身のコントロールができる。 16. 実習を通して、学んだ母性の特性・看護の役割について述べるができる。 17. 実習を振り返ることで自己の課題を明確にできる。			病院実習 90時間	香川労災病院 中国労災病院
評価方法 実習評価表に基づき出席状況・実習記録・実習態度等による総合評価とする。				
評価基準 60点以上で合格とする。				

49 回生 シラバス

科目名： 精神看護学実習	単位数： 2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数： 90	時期： 3年次
科目目標： 1 対象の理解を深める。 2 精神の健康状態に応じた日常生活行動の自立のための援助を行なう。 3 精神医療における看護の役割を理解する。 4 患者－看護師の相互関係の中で自己を振り返る。 5 学習者として望ましい態度で実習に取り組むことができる。				
授業内容			授業方法	場所
1. 対象を理解する上で必要な基礎学習ができる。 2. 受け持ち患者の情報収集ができる。 3. 受け持ち患者の行動の意味を述べることができる。 4. オレムアンダーウッドモデルを用いたセルフケア要素の情報を分析解釈できる。 5. 適切な看護問題を抽出できる。 6. 看護問題に対し計画立案できる。 7. 計画の実施・評価ができる。 8. 患者が主体であることを理解し行動できる。 9. 精神医療における看護師の役割について述べるができる。 10. 精神医療における看護職以外の職種の役割について述べるができる。 11. デイケアについて述べるができる。 12. 社会療法としてのレクリエーションについて述べるができる。 13. 断酒会について述べるができる。 14. 患者との信頼関係を築く為に必要なことを述べるができる。 15. 患者との関わりを受容・傾聴の視点で振り返ることができる。 16. 実習期間を通して自己洞察を深めることができる。 17. 毎日の振り返りやカンファレンスに積極的に参加できる。 18. 指導を受けた事を学びとして取り入れることができる。 19. 必要な報告・連絡・相談ができる。 20. 倫理的配慮にもとづき実習ができる。			病院実習 90時間	慈圭病院
評価方法 実習評価表に基づき出席状況・実習記録・実習態度等による総合評価とする。				
評価基準 60点以上で合格とする。				

49 回生 シラバス

科目名：在宅看護論実習	担当者（実務経験）： 専任教員 （臨床実務経験有）	総時間数：90 時間	時期：3 年次
単位数：2			
科目目標：			
<ol style="list-style-type: none"> 1 地域で疾病や障害を持ちながら療養する人々とその家族の身体的・精神的・社会的背景について理解できる 2 療養者の望みを実現するためのアセスメントができ、援助計画を立案することができる 3 在宅看護の目的、役割、看護援助が理解できる 4 看護小規模多機能型居宅介護・デイサービスにおける利用者の理解と看護の実際と役割について述べるができる 5 居宅介護支援事業所の役割と、地域で療養生活を送る人々を支える多職種連携について述べるができる 6 生活の場を拠点して行う看護である在宅看護の学習者として必要な態度を身に着けることができる 7 在宅看護の特徴と役割について自らの考えを述べるができる 			
	授業内容	授業方法	場所
1	療養者の健康上の問題と疾患や障害が及ぼす日常生活への影響について述べるができる （身体的側面）	施設実習 90 時間	マスカット訪問看護ステーション
2	療養者を支える家族・介護の状況について述べるができる （介護、家族状況の側面）		訪問看護ステーション アミューズ富永岡山南
3	療養者の在宅療養生活や疾患に対する思いや希望を述べるができる （心理的側面）		訪問看護ステーションママック
4	療養者を取り巻く環境や生活様式を捉え、日常生活への影響について述べるができる （環境、生活の側面）		訪問看護・リハビリテーションしん
5	望みを実現するために必要な情報収集を試、4つの側面で情報を整理することができる		はちみつ看護訪問看護ステーション
6	4 側面の情報を望みを実現するための促進因子か阻害因子かの視点でアセスメントできる		看護多機能型居宅介護
6	関連図を用いて療養上の課題を導き出すことができる		デイサービス
7	望みを実現するための必要な目標と援助計画を立案することができる		居宅介護支援事業所
8	療養者の健康状態の把握に必要なバイタルサインの測定、情報収集、観察を行い、健康状態のアセスメントができる		
9	療養者と家族の価値観や生活様式を尊重した看護の実際について述べるができる		
10	療養者と家族の自立と QOL の向上のための社会資源と看護援助について述べるができる		
11	予測的視点をもった看護の実際と自分の考えを述べるができる		

<p>12 利用者の施設利用目的を明確にし、療養生活への影響（効果）を述べる ことができる</p> <p>13 看護小規模多機能型居宅介護・通所介護（デイサービス）における看護の実際と役割を述べる ことができる</p> <p>14 居宅介護支援事業所の役割と地域で療養生活を送る人々を支える多職種連携について述べる ことができる</p> <p>15 ケアマネジメントの過程を通して、多職種連携の実際と求められる看護の役割について述べる ことができる</p> <p>16 訪問看護者としてふさわしいマナーで行動できる</p> <p>17 療養者と家族の意思を確認し、意思に沿った援助を行うことができる</p> <p>18 建設的な姿勢で指導を受けることができる</p> <p>19 自己の心身のコントロールができる</p> <p>20 実習を通しての学びから在宅看護の特徴と看護の役割について述べる ことができる</p> <p>21 実習を通して自己の課題と今後の取り組みを明確にできる</p>		
<p>評価方法 実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容および記録より評価する。</p>		
<p>評価基準 60 点以上を合格とする。</p>		